



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年2月26日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

「ネッシー」の謎

26日(日)＝1、3面



ネス湖畔にあるネッシーのオブジェ

英北部スコットランドのネス湖には巨大生物がいる、と昔から言われてきました。その姿は首長竜のようであり「ネッシー」と名付けられました。「湖面に顔を出しているネッシー」とされる写真を見たことがある人は多いと思います。この写真はトリック

だったことが明らかになりましたが、ネッシーの探索を真剣に考えた著名な政治家がいたのです。密漁から守ることや観光資源に活用することが目的でした。ネス湖の調査は21世紀に入ってからも続けられています。また、スコットランドにはネッシーだ

けではなく、怪物の目撃情報や妖精伝説が残っています。なぜ人々は、未知なる生物の存在を受け入れてきたのでしょうか。怪物はいるわけがない、といった常識にとらわれず「ネッシーの謎」に迫ってみました。

論点

日銀総裁交代で金融政策はどうなる

3月3日(金)＝オピニオン面

政府は14日、4月で任期が切れる日銀の黒田東彦総裁の後任に、元日銀審議委員で経済学者の植田和男氏＝写真＝を起用する人事案を国会

に提示しました。2013年の就任直後から10年間にわたり、「異次元」と称された大規模な金融緩和政策を主導してきた黒田氏が去ること

で、金融政策はどう変化していくのでしょうか。間もなく発足する植田・日銀の課題を含め、3人の識者とともに探っていきます。



弁護士事務所では日本人スタッフ（左端）と働くウクライナから避難した姉妹＝東京都港区で



ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから1年。これまでに戦火を逃れた避難民約2300人が日本に入国しました。経済面を中心に日本



侵攻が変えた世界

政府や民間の支援が展開されていますが、避難生活の長期化で課題も出てきています。仕事を求める人たちには「言葉の壁」のほか、戦争で

27日(月)＝3面

受けた「心の傷」がハードルになっていくケースがあり、教育現場でもメンタル面のサポートが重要になっていきます。

特集 ワイド

戦禍にロシア文学者ができること

28日(火)＝タ刊特集ワイド

ロシアのウクライナ侵攻から1年がたちます。この間、ロシア文学者の奈倉有里さん＝写真＝は、侵攻に抗議するロシアの作家や学者の声を精力的に翻訳してきました。プーチン大統領は、ロシアが誇る文学者のトル

ストイやドストエフスキーの作品を引用し、西欧を批判してきました。奈倉さんは「政治家が文学の話を持ち出したとき、ねじ曲げられた解釈をどう正すか、私たち文学者の存在意義が問われている」と話しています。



竹橋の窓辺から

編集後記

俳優のんさんが登壇した「いま、伝えたいこと」3・11と私たちは、2人がイベント参加者の震災体験を紹介し、百人いれば百通りの「あの時」と「それから」があるんだなと考へさせられました。朝ドラ「あまちゃん」の裏話が交って、程よい距離感で震災と向き合えます。ぜひアーカイブをどうぞ。こちらも参加費は震災遺児の支援に寄付します。(石原聖)

